

2020年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2019年10月29日@ステーションコンファレンス東京
7741.T [ADR: HOCOPY US] HOYA株式会社

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

業績概況

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益	1,420	1,541	+121	+9%
税引前四半期利益	384	442	+58	+15%
四半期利益	312	350	+38	+12%
cf. 通常の営業活動 からの利益	382	452	+70	+18%

為替影響が逆風のなか、過去最高の売上収益・利益を達成

為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,599	1,541	-57	+178	+13%
税引前四半期利益	450	442	-8	+66	+17%
四半期利益	357	350	-7	+45	+14%

主要通貨	(A)Q2 FY18 レート	(B)Q2 FY19 レート	変動率
US\$	¥111.88	¥107.67	+3.8%(円高)
EURO	¥130.54	¥118.95	+8.9%(円高)
BAHT	¥3.40	¥3.51	-3.2%(円安)

特殊要因等について

包括利益計算書

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY
収益合計	1,438	1,553	+115
費用合計	1,054	1,111	+57
減価償却費	63	84	+21
税引前四半期利益	384	442	+58

新リース会計基準の適用により減価償却費が増加。

ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	919	1,004	+85	+9%
税引前四半期利益	170	206	+37	+22%
cf.通常の営業活動 からの利益	187	217	+30	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益率	20.3%	21.6%	+1.3pt	

*外部売上の数値

ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	1,047	1,004	-43	+128	+14%
税引前四半期利益	210	206	-3	+40	+24%
cf.通常の営業活動 からの利益	220	217	-3	+33	+18%

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	490	524	+35	+7%
税引前四半期利益	217	243	+27	+12%
cf.通常の営業活動 からの利益	209	243	+33	+16%
cf.通常の営業活動 からの利益率	42.7%	46.2%	+3.5pt	

*外部売上の数値

情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q2 FY19業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	538	524	-14	+48	+10%
税引前四半期利益	248	243	-5	+31	+14%
cf.通常の営業活動 からの利益	247	243	-5	+38	+18%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ/コンタクトレンズ

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	706	761	+54	+8%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	791	761	+84	+12%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	213	244	+31	+15%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	256	244	+44	+21%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	381	430	+49	+13%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	441	430	+60	+16%

*外部売上の数値

サブセグメント別業績

映像関連製品 光学レンズほか

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY	YoY(%)
売上収益*	109	94	-15	-14%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	97	94	-12	-11%

*外部売上の数値

貸借対照表

(億円)	Q1 FY19	Q2 FY19	QoQ
非流動資産	2,764	2,798	+34
流動資産	4,868	5,169	+301
資本	6,113	6,370	+256
非流動負債	334	314	-20
流動負債	1,185	1,284	+99
合計	7,632	7,968	+335

現金及び現金同等物が246億円増加したことにより、流動資産は増加

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q2 FY18	Q2 FY19	YoY
営業活動によるCF	401	447	+46
減価償却費	63	84	+21
投資活動によるCF	-196	-111	+85
財務活動によるCF	3	-75	-78
リース負債の返済による支出	-	-18	-18
現金及び現金同等物 期末残高	2,523	2,984	+461

新リース会計基準の適用により、減価償却費（営業CF）とリース負債の返済（財務CF）の間で入り繰りが発生した。

自社株買いについて

本年10月末終了の自社株買いの取得状況や手元資金の状況等に鑑み、追加の自社株買いを決議

自社株買い①

取得上限：600億円

期間：2019/5/8～2019/10/28

取得株式総額：241億円（消却予定）

自社株買い②

取得上限：500億円

期間：2019/10/30～2020/4/23

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

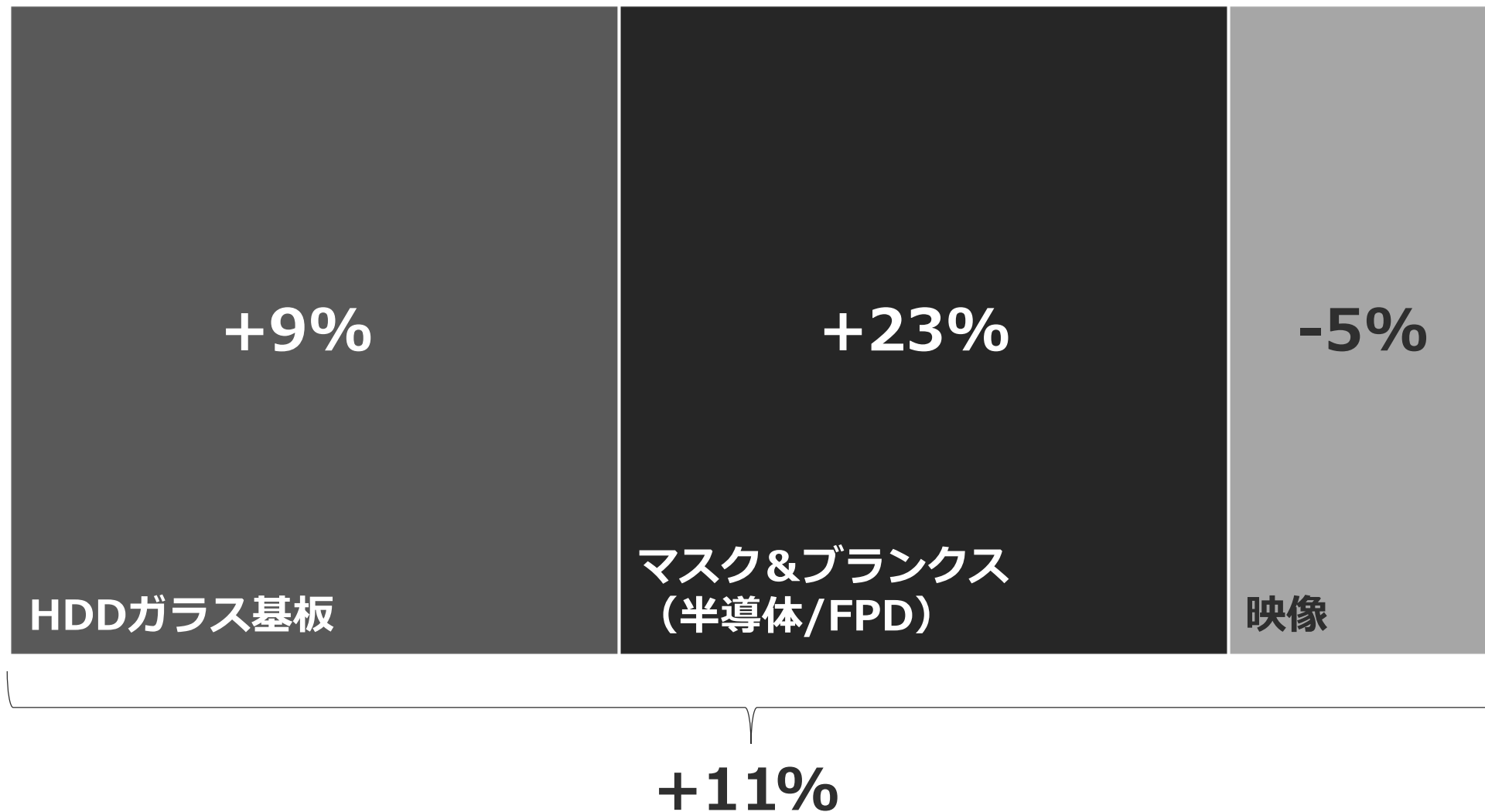
3. ライフケア事業概況

4. 総括

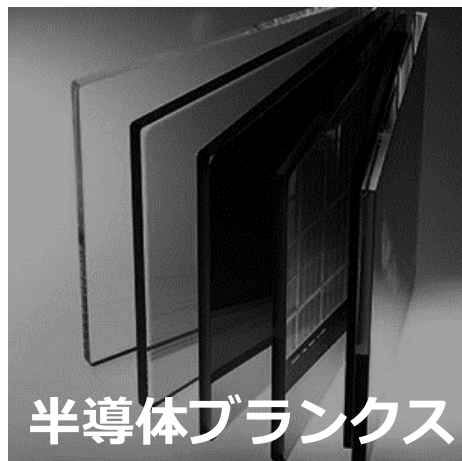
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況

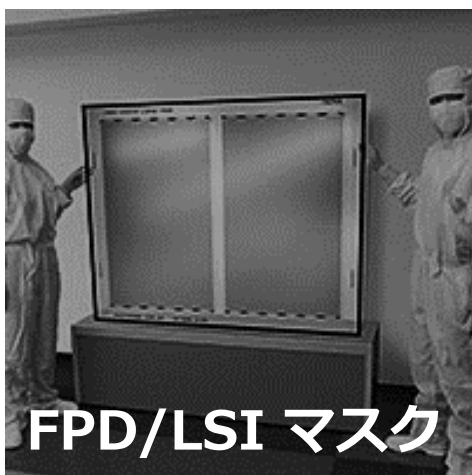


足元

引き続き7nmオプティカルが好調。EUV用途もモメンタムを維持し、前期比90%強の成長

今後

半導体メーカーのEUV投資意欲向上、露光機の稼働数増加を背景にEUV用途の成長を期待



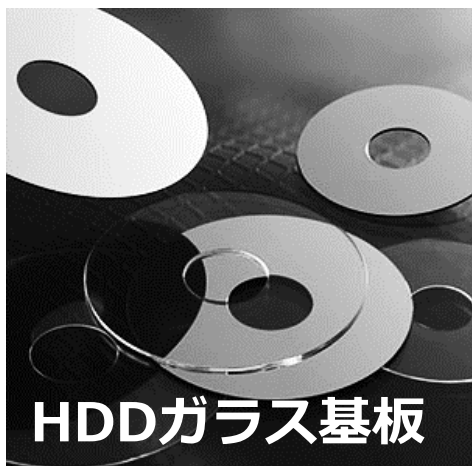
足元

中国・韓国市場におけるOLED需要を取り込み成長

今後

今後さらなる成長が予測される中国市場におけるビジネス拡大を図っていく

製品別概況

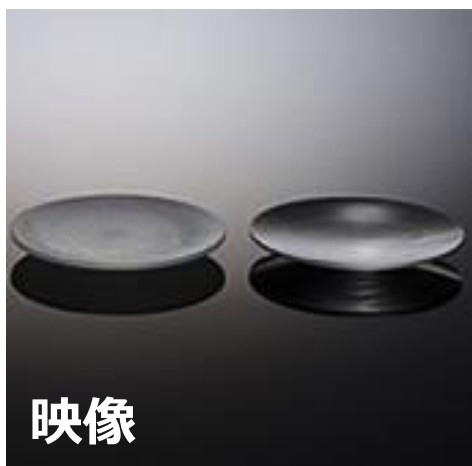


足元

データセンター需要が回復基調で全体で増収
3.5"売上比率は37%に

今後

既存製品のリプレースにより、引き続き3.5"
基板の成長を図っていく



足元

カメラ市場の縮小により、引き続き減収となっ
た

今後

継続的に新規用途/販売チャネルの開拓を行う

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況

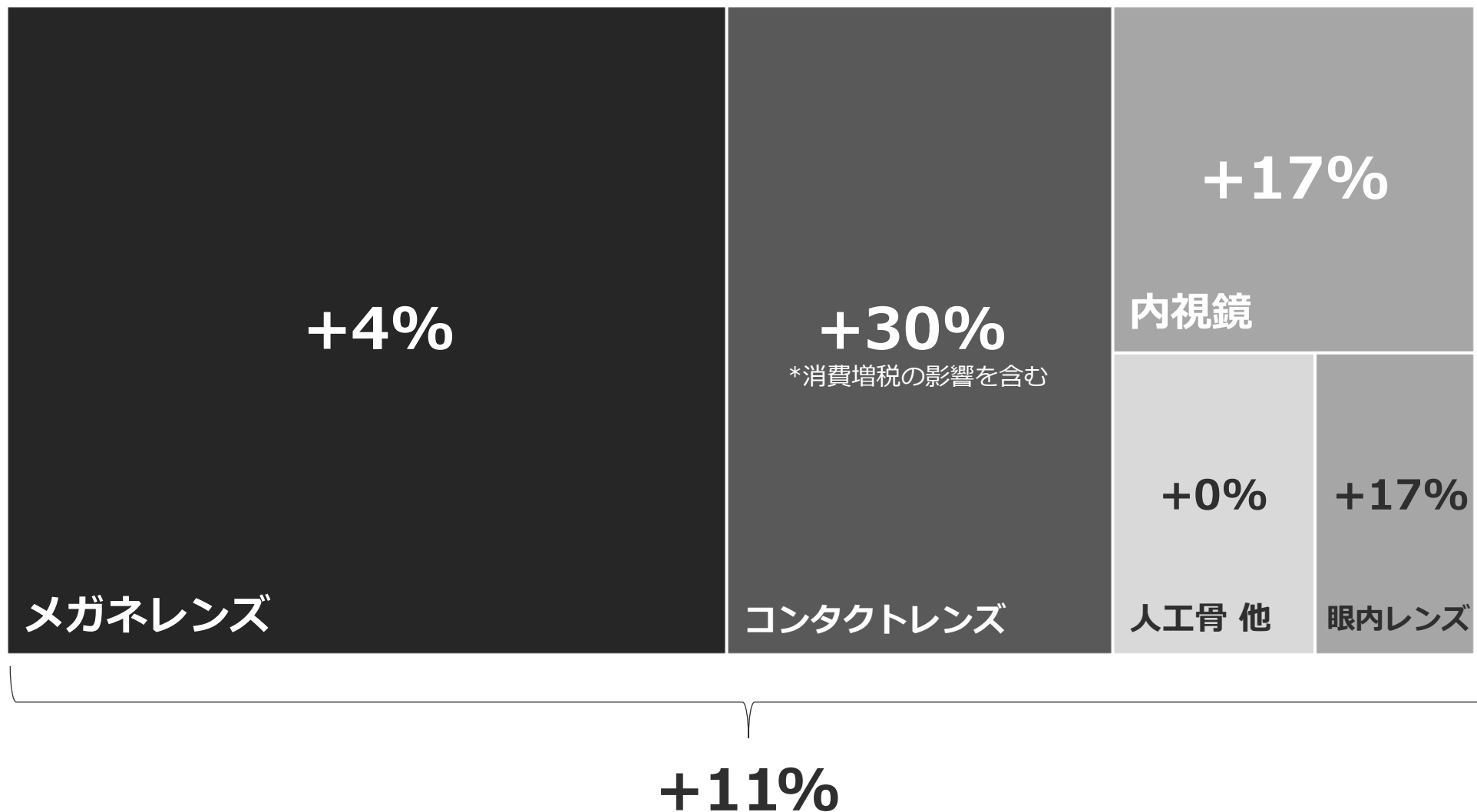
3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]

4. 総括

5. 質疑応答

ライフケア事業概況

売上増減率 (Like-for-Like)



製品別概況



メガネレンズ

足元

欧州やアジアにおける成長がけん引し、全体で増収

今後

11月にベトナム第2工場操業開始
新規顧客開拓を続ける



コンタクトレンズ

足元

増税前の駆け込み需要により大幅増収
期末店舗数 315店（買収込み）

今後

駆け込み需要からの反動減を予想
下期に出店を加速

製品別概況



足元

中国市場での売上が回復し、二桁成長を達成

今後

買収した会社とのシナジー効果を検討
新製品を順次投入



足元

新製品効果等により、売上比率の高い欧州や、
アジアが大幅増収をけん引

今後

引き続き新製品を順次投入

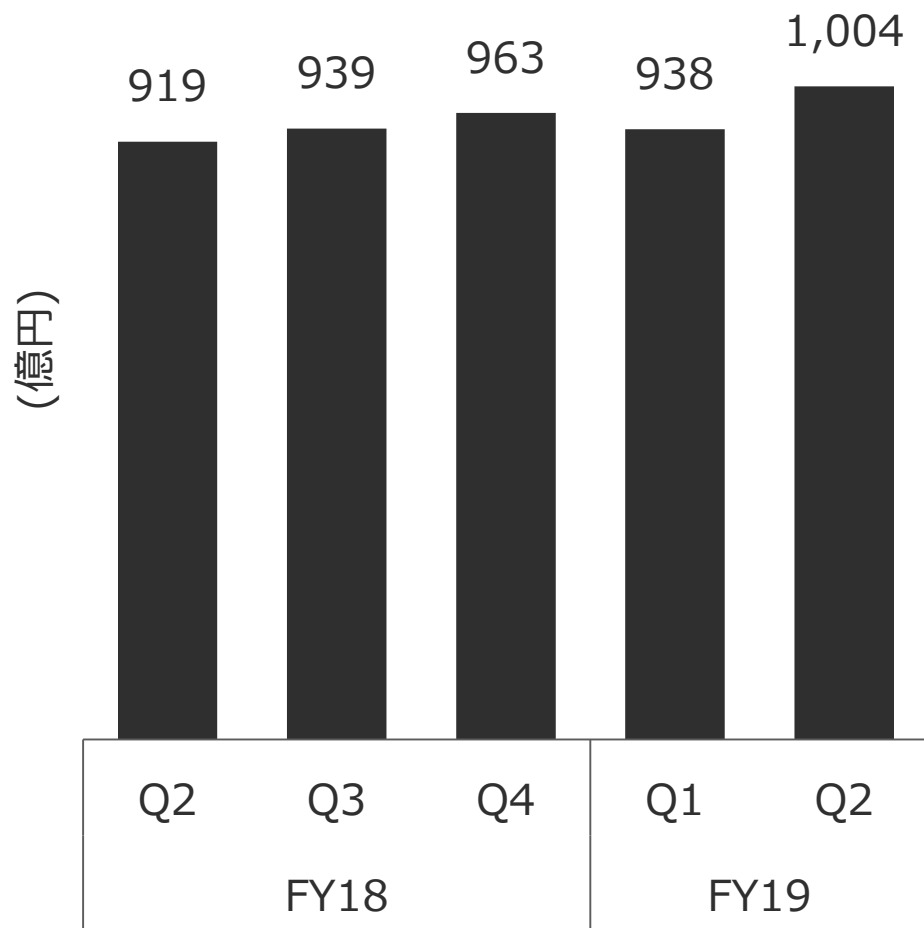
1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

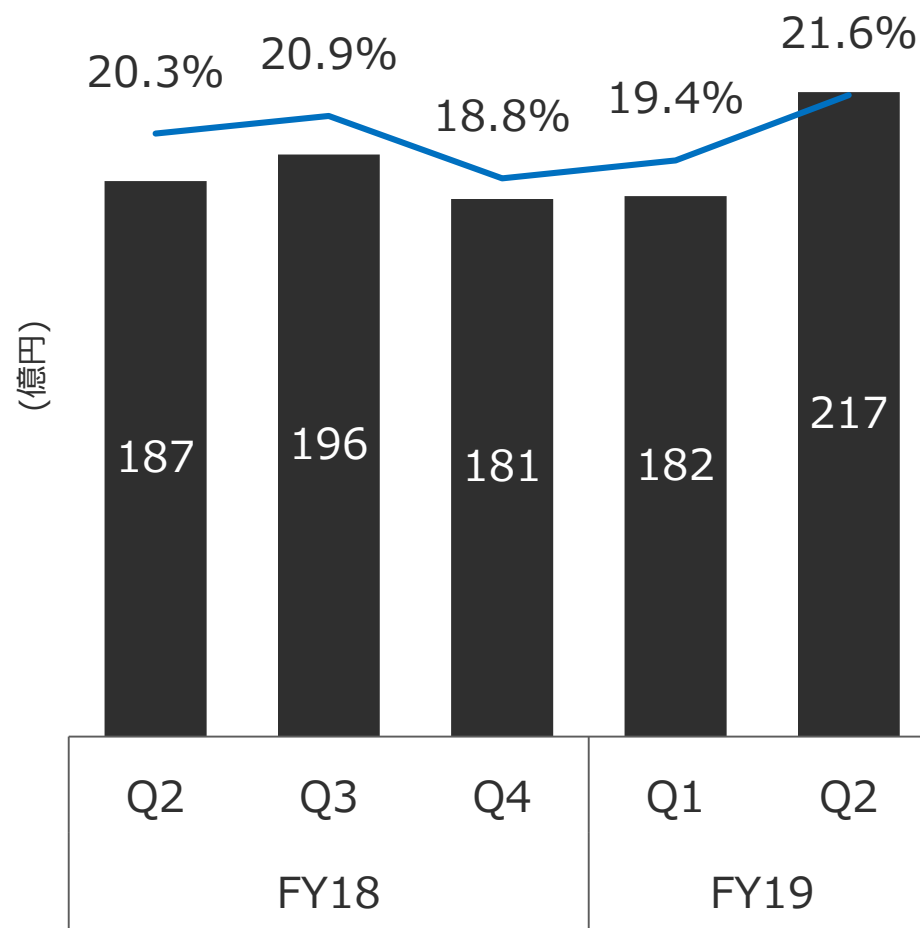
Appendix

ライフケア事業 QoQ推移

売上収益



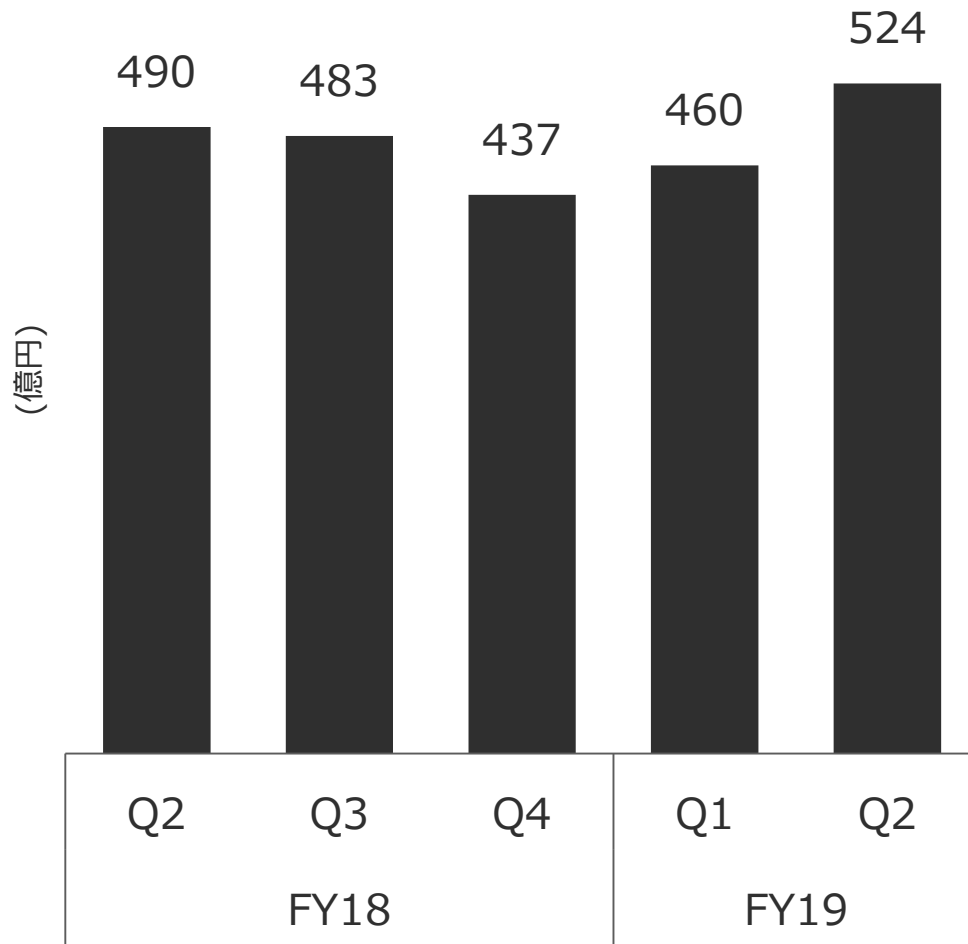
cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



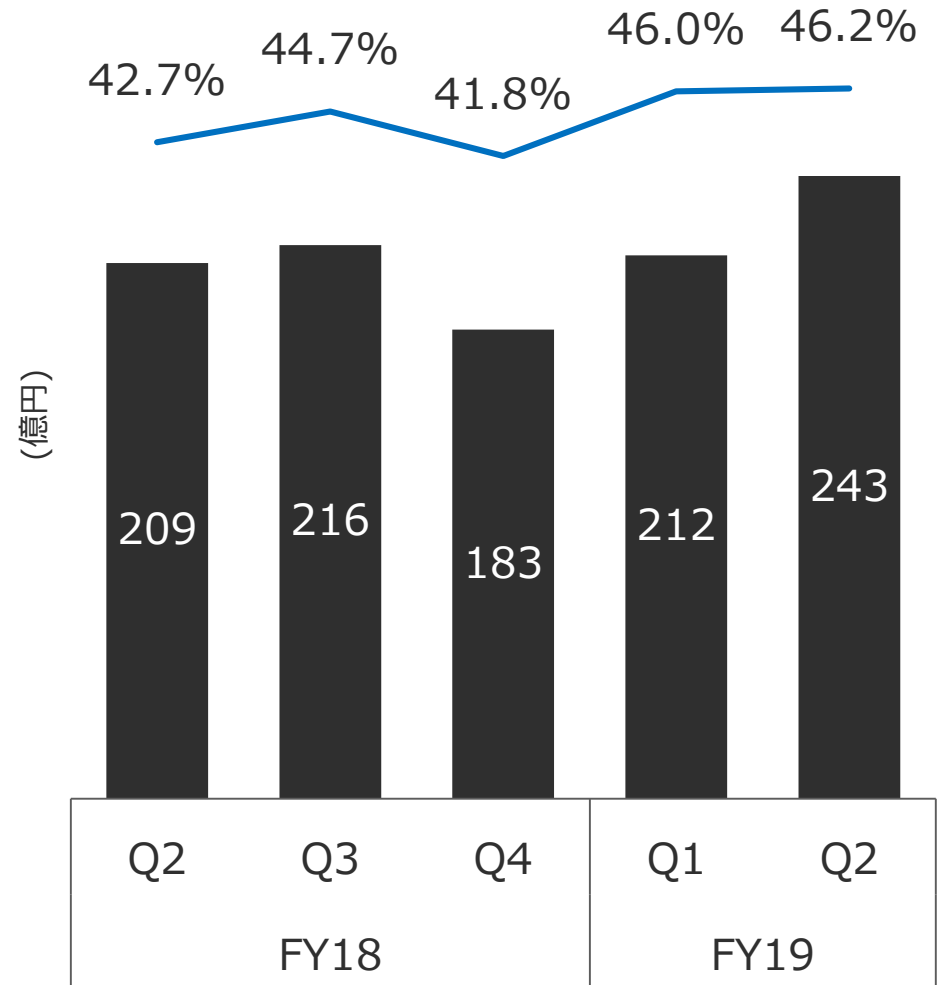
*外部売上の数値

情報・通信事業 QoQ推移

売上収益



cf. 通常の営業活動からの利益 / 率



*外部売上の数値

[HDD基板] ラオス新工場の建設状況

データセンター向けHDDの需要増に備え、HDD基板（3.5"）の新工場をラオスに建設中。当社としての同国への拠点設立は初めて。工程は順調に進捗しており、2020年4月より稼働開始予定。



[コンタクトレンズ] 空ケースリサイクル運動の状況

使い捨てコンタクトレンズのケースは、メーカー問わずポリプロピレンで作られており、リサイクルに最適。コンタクトレンズ事業（アイシティ）では2010年より空ケース回収を開始、今では様々な企業や学校の協力のもと活動中。これまでに327万トン回収、905トンのCO2削減に貢献、リサイクルで得た対価全額の786万円を日本アイバンク協会に寄付している。また本年10月24日には、東京都東大和市と協定を締結し、市立中学校や市民センターなどを拠点に回収を開始、活動範囲をさらに拡大している（写真は調印式）。



本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2019年4月～2020年3月の会計期間を2020年3月期もしくはFY19と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際のコロ額を基に算出しています。
- ✓ Like-for-Likeとは、為替換算影響やM&A効果、その他のイレギュラーな要素を除き比較した変動率を指します。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。

<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。